

「AYA支援チームのモデル作成に関する研究」

研究分担者 山本一仁 愛知県がんセンター 血液・細胞療法部 部長

研究要旨：AYA世代がん患者支援チームのモデル作成のため、院内のAYAがん患者支援チームの体制整備とそれを基盤にした教育プログラムや地域のネットワークの構築による包括的なAYAがん患者支援チーム体制の整備を目的として、地域の包括的AYAがん患者支援構築の基盤となる当施設のAYA支援の問題点と不足点を拾い上げ、院内AYAがん患者支援体制整備を定期的な会議を開催し検討した。それに基づき、AYA世代がん患者に特化した苦痛スクリーニングシートを使用し有用性の検討をおこなった。また、名古屋大学との連携を図り生殖医療支援体制を構築した。地域支援活動としては、東海地区のAYA世代がん患者・家族支援ネットワーク構築プログラム研修会を実施した。さらに愛知県健康対策課がん対策グループと愛知県のAYA世代がん患者支援体制について議論し継続的な支援体制の必要性を確認した。

A. 研究目的

AYA世代がんは、稀少がんにも関わらず、疾患構成が多様であることから、医療機関や医療従事者において、診療や相談支援に関する知識や経験が蓄積されにくい。また、AYA世代に特有の悩みやニーズは多岐にわたり、個別性が高い。このような中、全国に遍在するAYA世代のがん患者やサバイバー（以下、「AYAがん患者」）に対して包括的ケアを提供する体制の整備が求められている。

本研究は、地域のAYAの包括的支援の核となる「AYA支援チーム」のモデルを作成し、がん診療施設が多職種チームを対象に「AYA支援チーム」教育プログラムを実施、さらにこれらの活動を通して「AYA支援チーム」のネットワークを構築することを目的としている。

B. 研究方法

- ・愛知県がんセンターにおけるAYAがん診療体制と支援体制の実態と問題点（不足点など）の抽出
- ・AYA診療支援チームの立ち上げ
- ・チーム会議の開催
- ・当施設のAYAがん患者の把握・捕捉体制の構築

- ・AYA世代に特化した苦痛スクリーニングシートを使用して患者の悩みをより抽出

（倫理面への配慮）

該当せず

C. 研究結果

AYA支援チーム会議を定期的に開催し、愛知県がんセンターにおけるAYAがん診療体制と支援体制の実態と問題点（不足点など）を抽出した。多くの支援体制は、既存の院内リソースを活用することで可能であった。一方、AYAがん患者を一元的に把握するシステムと生殖性支援の体制が主に不足していた。生殖性支援に関しては、当地区のがん生殖ネットワークの中核を担う名古屋大学と連携を図り、生殖医療支援体制を構築した。

AYA weekに、AYAがんの医療と支援のあり方研究会の支援のもと、東海地区・AYA世代がん患者・家族支援ネットワーク構築プログラムを実施した（令和3年3月22日）。

AYA世代に特化した苦痛スクリーニングシートを使用してAYA世代患者の悩みをより抽出することを試みた。現在、当院で全年齢に共通して使用している苦痛スクリーニングシートとの比較で、その

有用性を解析・検討中である。

愛知県健康対策課がん対策グループと愛知県のAYA世代がん患者支援体制について話し合いをおこない、継続的な支援体制の必要性を確認した。

D. 考察

AYA診療支援チームの活動を通じて、患者のみならず、医療従事者も支援していくことが必要である。今後詳細な検討が必要であるが、苦痛スクリーニングに関しては、AYA世代専用のスクリーニングシートを作成する必要があるかもしれない。当院で完結できない支援は他施設との連携が必要であった。院内、地域のAYA世代がん患者を継続的に支援していく枠組みが必要である。

E. 結論

愛知県がんセンターにおけるAYA支援体制の整備をおこなっている。これを基盤とした地域の包括的AYAがん患者支援構築をすすめる。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし